とかち新聞
主筆　松山明
発行所　北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話255番
毎旬5の日発行　1部70円1カ月200円　1カ年前納2,000円

農業の危機を訴える三町で大集会

狂乱物価のなかで生産資材や肥料などはドンドン値あげしているのに、農畜産物価格だけは低く押えられているのではやりきれないとして、足寄町では二月二十八日に公民館で、本別町では一日に農協会館で、陸別町では二日に福祉センターで、それぞれ町長が大会長になって、それぞれ三百名から五百名の農民があつまって、危機突破の集会をひらいたもので、はじめに斉藤農協組合長から開会あいさつ、小林町長から大会長としてのあいさつがあつて足寄町の場合は町、農業委員会、農協、同青年部、連盟が主催団体となつてひらいたもので、はじめに斉藤農協組合長から開会あいさつ、小林町長から大会長としてのあいさつがあつて足寄町の場合は町、農業委員会、農協、同青年部、議長団に香川博彦、関根安司の両氏を推して議事に入り、遠山開協組合長から経過報告があり、この大会の議題として①保証乳価の大巾引上げ要求②畜肉の価格安定化要求③飼料値上げ阻止の要求④ビート最低生産者価格の要求⑤営農資材の安定確保要求⑥実行方策ーたばこについて各団体代表から提案説明があつてこれを審議決定して、国の食糧政策の転換を求める「足寄町畜産畑作危機突破」の大会決議を採択しました。

このあと来賓の新村道議大滝議長、永村地区労議長から激励のあいさつ、吉田参議、美濃衆議から激励電があり、畠農民同盟委員長の音頭で『ガンバロー』を三唱、斉藤農協組合長のあいさつで閉会しました。

◆

農業危機突破陸別大集会は町、町議会、農業委員会、農協、農業共済組合、酪農振興会、酪農同志会、農村青年協議会、農協婦人部の主催、地区労、婦人会、商工会の後援でひらいただけに、会場前に地区労の組合旗が林立して、白ハチマキの農民とともに労働者、商工業者に婦人も参加して住民ぐるみの大会になつたもので、宮川町産業課長の司会によつて杉田町長のあいさつがあつて議長団に渡辺平吉、秋山実、坂倉章氏らを推し、岡田農協組合長と西本農協中央会帯広主幹から情勢報告があつて、津幡三男、西岡隆、谷郁司、菅野真砂子さんらが営農の実情を報告、農民代表として和田忠司氏が決意を表明、たが、この日は労農商工一体の危機突破集会でした。

大会スローガンとして
一、飼料価格の急騰を防止し、畜産経営の安定をはかろう
二、一物一価の大原則にもとずき保証乳価をかちとろう
三、種をまく前にビート生産者価格一万五千円をかちとろう
四、営農資材の完全確保と価格値上げを阻止しよう
五、消費者の立場を理解し中間マージン、便乗値上げを阻止しよう
との提案を確認したあと金沢商工会長、正垣地区労議長、児玉婦人会代表、小倉十勝酪振協代表から激励のことばがあつて、参加者全員で駅前までの市街行進にうつりました。

小坂山ようやく除外へ

農業振興地域からの除外でもたついていた足寄町の小坂山周辺については、ようやく道、支庁当局での調査や認可関係資料がまとまりしだい近く指定除外のはこびとなりました。

問題はこの土地が農用地としては不適当かどうかの専門的な異付資料の解明に手間とつたものとされているものの、実際には農振法で制約されているのに事前になにらの連絡もなく、町議会で処分を議決し、業者と売買契約をすませたうえで、農振除外の手続きにおよんだもので、一千㌶ものの大面積にたいする町の〝農振法軽視〟の姿勢に道の担当課が反発して、ああでもない、こうでもないと引き延ばしてきたのではないかとみられています。

その点は道ばかりではなく町の農業委委員会にしてもそうで、昨年の九月に議決をし売買契約をしたうえで町長から農振除外についての諮問があつたときには『これでは農業委員会無視ではないか』と会議が二時間も空転したほどでした。

そこえもつてきて道内各地での農外資本による土地買い占めの乱開発や農地法違反事件などがあつて道議会で野党側の問題提起もあつて道当局としては農地処理には特に慎重を期しており、小坂山については昨年十一月いらい除外がダメともヨイともいわないでズルズルと四カ月も決定をもちこしとなつていたところ地元の渡部勇雄道議が町側の計画を調べたうえでの口添えがあつて、道として最終的に態度を決めたといわれています。

陳情公害では？

未定の学園都市

○…〝角福戦争〟に勝つて首相の座についた田中さんは1昨年の夏に心うきうきと堂垣内知事に『阿寒、十勝、釧路湿原あたりに研究学園都市を設けては…』との耳よりなはなし。

○…道ではさつそく委員会をつくりチームを設けてとりくんだものの、未だに候補地は決まらず、さきほど設致期成会をスタート。

○…2日に町村道開発庁長官が田中首相の意向をきいたところ『建設地点は全く未定だが将来つくる場合は北海道にと考えている』とノンビリしたはなし。

○…3年目を迎えても、いつ、どこで、どのように、とのベンリンも示さないで全道各市町村の誘致陳情運動をあおつておいて、陳情をうけるのを楽しんでいるような格好で、こうもモツタイふられるのでは陳情公害をばらまいているようなもので、決断と実行を売りものの田中さんもこれでは看板倒れの形。

国のうちそと

農民春斗の武器

★いささかも官製農民大会といつた嫌いはあるものの、保証乳価を一キロ百円以上、ビート生産者価格を一万五千円以上などの要求をかかげて、町の行政と農業団体がいっしょになつて立ちあがらざるを得なくなつたこの農民春斗。

★すでに労働組織の春斗は三月一日の第一波ストにつづいて二十六日の第二波、さらに四月中旬のゼネストへと実力行使が予定されているのにたいして、農民春斗の方は要求をかかげて気勢をあげるだけのことで、要求が通るまで牛乳は出荷しない、ビートの作付はしないといつた形のストをぶつわけにはいかないので、農民を生かさず殺さずといつたノー政をつづけてきたインフレ地獄へ投げ込まれては大変と、これまで時の支配層に従順で自民党の金城湯池とされてきた農民層といえども農業政策の転換を要求せざるを得なくなつてきたこと。

★労働者の賃あげ要求を、気勢をあげて交渉するだけ相手側（自民党政府と大資本）にとつては痛くもかゆくもないこと。

★此村が主催の〝官製農民大会〟では、労組大会の列車やバスをとめる、生産や業務をとめることによつて賃あげをかちとつている農民にはそうした武器はないこと。

★それをよいことにして、農民を生かさず殺さずといつたノー政をつづけてきた自民党政府は支持しないと、参議院選へ向つて労働者と共斗をすすめることが政治を転換させる最大の武器。

★ようにに田中インフレ内閣打倒を叫ぶわけにはいかないので、オブラートに包んで「政策の転換」と表現しているものの資本主義政党が資本主義政策を転換するわけがないのだから、要するに「もはや自民党政治ではダメだ」といつているようなもので、このさい遠慮せずオブラートをはがして農民の要求をきき入れない政府は支持しないと、参議院選へ向つて労働者と共斗をすすめることが政治を転換させる最大の武器。

愛町意識調査

陸別町商工青年会で

町行政の現状から町の産業、数育、文化、生活環境の在り方などについて住民はどう考えているかー愛町意識調査として陸別町商工青年会（河本哲士会長）では一千七百四十九戸の全世帯にたいしてのアンケートがこのほど六五%回収され、さらに回収につとめたうえで集計にあたることにしていますが、回答のなかには提言としてビツシリ書き込まれていて町議会のなかでサツパリ発言しない議員のことや、役場職員が多すぎるという意見やら、商工青年会がこうした調査をするのはどうかといつた手厳しい反応もあるそうで、集計の結果が注目されています。

ロータリーの十勝集会

足寄

足寄ロータリークラブ（麻生謙介会長）では十日午前十時半から公民館を会場にして、帯広市をはじめ十勝管内のロータリークラブのゼネラル・ホーラム（連合協議会）を開催します。

この日は町内外の会員約百七十名が参集して、社会奉仕、職業奉仕などのテーマによる各分科会をひらいてロータリー活動の在り方について研究、討議がおこなわれますが、閉会後はグリーンパークで懇親会をひらくことにしています。

おでん
スナック　シャンブル
足寄町南一区　T　二四三九

霊きゅう車　葬儀仏具一式　花輪　生花
㊐自動車　新津はなや
足寄町西三区　T　二六二六

カメラ　八ミリ　写真材料
上野カメラ堂
上野復興
足寄駅通り　T　二五一二

新畳　表替　中古畳　フスマ張替
二段ベッド
敷物一式
マットレス
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T二四二八

大自然のなかの人工美
ーいで湯のふるさとー
観光と保養の
♨芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

春物衣料
が各産地から続々と入荷いたしておりますので御光来、御用命下さい。
物価高に負けないよう足で集めて参りましたので価格も安く、また形も流行品ですので、御満足を得られることと存じますのでお早目に春をお買い下さい。お待ち申し上げます。
株式会社　前田呉服店
足寄町駅前商店街　T二〇二二

技術に生きる！
ーあらゆる電気器具ー
ビクター
テレビ
ラジオ
レコード
ステレオ
有限会社
ミネ・デンキ
足寄町主笠通り　T　2642